



平成29年2月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成28年10月11日

上場会社名 株式会社 柿安本店
 コード番号 2294 URL <http://www.kakivasuhonten.co.jp>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 赤塚 保正
 問合せ先責任者 (役職名) 専務取締役 (氏名) 赤塚 義弘
 四半期報告書提出予定日 平成28年10月11日
 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無
 四半期決算説明会開催の有無 : 有 (機関投資家、証券アナリスト向け)

上場取引所 東

TEL 0594-23-5500

(百万円未満切捨て)

1. 平成29年2月期第2四半期の連結業績(平成28年3月1日～平成28年8月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
29年2月期第2四半期	21,006	△0.0	912	△1.8	932	△1.5	478	△12.0
28年2月期第2四半期	21,007	△0.6	929	△11.1	946	△10.9	543	1.4

(注) 包括利益 29年2月期第2四半期 489百万円 (△8.7%) 28年2月期第2四半期 535百万円 (△1.5%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
29年2月期第2四半期	44.08	—
28年2月期第2四半期	47.13	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
29年2月期第2四半期	17,546	12,570	71.6
28年2月期	17,689	12,944	73.2

(参考) 自己資本 29年2月期第2四半期 12,570百万円 28年2月期 12,944百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
28年2月期	—	0.00	—	45.00	45.00
29年2月期	—	0.00	—	—	—
29年2月期(予想)	—	—	—	45.00	45.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成29年2月期の連結業績予想(平成28年3月1日～平成29年2月28日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	44,500	2.2	2,430	1.7	2,440	0.9	1,330	△1.5	121.98

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
新規 一社 (社名) 、 除外 一社 (社名)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	29年2月期2Q	12,446,700 株	28年2月期	12,446,700 株
② 期末自己株式数	29年2月期2Q	1,740,627 株	28年2月期	1,540,627 株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	29年2月期2Q	10,860,421 株	28年2月期2Q	11,536,625 株

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期財務諸表のレビュー手続は終了しております。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. サマリー情報（注記事項）に関する事項	3
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動	3
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	3
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	4
3. 継続企業の前提に関する重要事象等	4
4. 四半期連結財務諸表	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	7
四半期連結損益計算書	
第2四半期連結累計期間	7
四半期連結包括利益計算書	
第2四半期連結累計期間	8
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	9
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	10
(継続企業の前提に関する注記)	10
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	10
(セグメント情報等)	10

1. 当四半期決算に関する定性的情報

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において、当社グループが判断したものであります。

(1) 経営成績に関する説明

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、財政金融政策等により緩やかな回復基調にあり、雇用環境にも改善がみられました。一方、海外における経済の先行き不透明感の高まりや円高の進行等、企業業績への影響が懸念される中で個人消費の回復は依然として遅れており、引き続き厳しい状況で推移いたしました。

このような環境の中、当社グループは、惣菜部門の強化を図るとともに、高付加価値商品の開発に注力いたしました。『究極の黒毛和牛 三重 柿安牛入り メンチカツ』には、昨年リブランディングを実施した当社オリジナルブランド牛「柿安牛」を使用した他、ローストビーフを利用した商品展開を拡大する等、こだわりの食材「お肉」を使用した商品への取り組みを強化いたしました。

また、常にお客様目線の商品開発と接客サービスの強化を行うための環境づくりとして表彰制度制定の他、スキルアップのためのマネジメント・接客接客研修の追加開催等、人材育成にも継続して注力いたしました。

出退店・改装につきましては、三重県内の商業施設への出店が初めてとなる「近鉄四日市柿安ダイニング」「近鉄四日市柿安上海DELI」の出店を含め計8店を出店するとともに、洋惣菜と中華惣菜との併設店舗への改装を含め計4店の改装を行い既存店の活性化を図りました。一方、4店を閉鎖いたしました。

以上の結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は21,006百万円（前年同期比0.0%減）、営業利益は912百万円（同1.8%減）、経常利益は932百万円（同1.5%減）、親会社株主に帰属する四半期純利益は478百万円（同12.0%減）となりました。

セグメントの業績は次のとおりであります。

(a) 精肉事業

精肉事業につきましては、精肉の惣菜として惣菜部門の強化を進めると共に、小間切れ等、既存定番商品の見直しを行いました。また、「柿安牛」の更なる浸透を図るため、PR強化並びに社員教育を実施し、定着と改善に努める等、精肉事業の活性化を図りました。

この結果、当事業の売上高は7,043百万円（前年同期比1.1%減）、セグメント利益は399百万円（同19.6%減）となりました。

(b) 惣菜事業

惣菜事業につきましては、基幹商品である『黒毛和牛 牛めし』とうなぎを一緒に味わえる『黒毛和牛 牛めし&国産 うなぎ』の前倒し販売の他、夏季限定商品として『ピーツとくるみのチーズポテトサラダ』を発売する等、季節の旬の食材を取り入れた売場展開に継続して取り組む等、惣菜事業の活性化を図りました。

この結果、当事業の売上高は6,263百万円（前年同期比3.4%増）、セグメント利益は613百万円（同5.9%増）となりました。

(c) 和菓子事業

和菓子事業につきましては、昨年もお好評いただいた『冷やしバナナ大福』『冷やし生チョコバナナ大福』に加え、フルーツ大福シリーズ『シャインマスカット大福』等の期間限定の販売を拡充いたしました。定番商品である「おはぎ」においては、『桜おはぎ』『ずんだおはぎ』『枝豆おはぎ』他「季節のおはぎ」を展開する等、商品開発に注力いたしました。また、お客様目線での接客接客サービスの向上を図るため研修を追加開催し、従業員教育にも注力いたしました。

この結果、当事業の売上高は3,562百万円（前年同期比1.0%増）、セグメント利益は333百万円（同20.6%増）となりました。

(d) レストラン事業

レストラン事業につきましては、ビュッフェ業態の三尺三寸箸では、初夏には『自家製柔らかなサラダチキン～爽やかレモン風味～』、盛夏には『豚ばら肉と夏野菜の炒め～BBQソース～』等の色鮮やかで栄養価が高くおいしい旬野菜を素材にした季節限定のメニューを展開、季節を先取りした常に魅力ある商品展開を実施いたしました。

この結果、当事業の売上高は2,526百万円（前年同期比5.6%減）、セグメント利益は61百万円（同60.8%減）となりました。

(e) 食品事業

食品事業につきましては、減塩タイプの牛肉しぐれ煮、「くるみ」や「ちりめん」のしぐれ煮等、既存定番商品に加え、『料亭しぐれ煮すき焼井』をはじめ自家需要アイテムの拡充に注力いたしました。

この結果、当事業の売上高は1,610百万円（前年同期比0.8%減）、セグメント利益は127百万円（同22.2%減）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

資産、負債及び純資産の状況

当第2四半期連結会計期間末における資産合計は、前連結会計年度末に比べ142百万円減少し、17,546百万円となりました。

流動資産は270百万円減少し、9,492百万円となりました。主な要因は、現金及び預金の減少1,092百万円と売掛金の増加512百万円及び仕掛品の増加267百万円等であります。固定資産は128百万円増加し、8,054百万円となりました。主な要因は、建物及び構築物の増加51百万円等であります。

当第2四半期連結会計期間末における負債合計は、前連結会計年度末に比べ230百万円増加し、4,975百万円となりました。

流動負債は315百万円増加し、4,259百万円となりました。主な要因は、買掛金の増加360百万円と未払消費税等の減少88百万円等であります。固定負債は84百万円減少し、716百万円となりました。主な要因は、長期借入金の減少75百万円等であります。

当第2四半期連結会計期間末における純資産合計は、前連結会計年度末に比べ373百万円減少し、12,570百万円となりました。主な要因は、自己株式の取得による減少372百万円等であります。

キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結会計期間末における現金及び現金同等物（以下「資金」という。）は、前連結会計年度末に比べ1,092百万円減少（前連結会計年度末比19.1%減）し、当第2四半期連結会計期間末には4,628百万円となりました。

当第2四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動の結果、得られた資金は394百万円（前年同四半期は363百万円の獲得）となりました。収入の主な内訳は、税金等調整前四半期純利益849百万円に対し、非資金損益項目等の調整を加減した営業取引による収入708百万円等であり、支出の主な内訳は、法人税等の支払額314百万円等であります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動の結果、使用した資金は542百万円（前年同四半期は420百万円の使用）となりました。収入の主な内訳は、定期預金の払戻による収入600百万円等であり、支出の主な内訳は、定期預金の預入による支出600百万円、有形固定資産の取得による支出470百万円等であります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動の結果、使用した資金は943百万円（前年同四半期は2,235百万円の使用）となりました。支出の主な内訳は、配当金の支払額490百万円及び自己株式の取得による支出372百万円等によるものであります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

業績予想につきましては、平成28年4月11日に発表いたしました「平成28年2月期 決算短信〔日本基準〕（連結）」に記載しております予想から変更はありません。

2. サマリー情報（注記事項）に関する事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動
該当事項はありません。
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用
該当事項はありません。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

(会計方針の変更)

(企業結合に関する会計基準等の適用)

「企業結合に関する会計基準」（企業会計基準第21号 平成25年9月13日）、「連結財務諸表に関する会計基準」（企業会計基準第22号 平成25年9月13日）及び「事業分離等に関する会計基準」（企業会計基準第7号 平成25年9月13日）等を第1四半期連結会計期間から適用し、四半期純利益等の表示の変更及び少数株主持分から非支配株主持分への表示の変更を行っております。当該表示の変更を反映させるため、前第2四半期連結累計期間及び前連結会計年度については、四半期連結財務諸表及び連結財務諸表の組替えを行っております。

(平成28年度税制改正に係る減価償却方法の変更に関する実務上の取扱いの適用)

法人税法の改正に伴い、「平成28年度税制改正に係る減価償却方法の変更に関する実務上の取扱い」（実務対応報告第32号 平成28年6月17日）を第1四半期連結会計期間から適用し、平成28年4月1日以後に取得した建物附属設備及び構築物に係る減価償却方法を定率法から定額法に変更しております。

なお、当第2四半期連結累計期間において、四半期連結財務諸表に与える影響は軽微であります。

(追加情報)

(法人税等の税率の変更等による繰延税金資産及び繰延税金負債の金額の修正)

「所得税法等の一部を改正する法律」（平成28年法律第15号）及び「地方税法等の一部を改正する等の法律」（平成28年法律第13号）が平成28年3月31日に公布され、平成28年4月1日以後に開始する連結会計年度から法人税率等の引下げ等が行われることになりました。これに伴い、繰延税金資産及び繰延税金負債の計算に使用する法定実効税率は従来の31.5%から平成29年3月1日に開始する連結会計年度及び平成30年3月1日に開始する連結会計年度に解消が見込まれる一時差異等については30.2%に、平成31年3月1日に開始する連結会計年度以降に解消が見込まれる一時差異等については29.9%となります。

この税率変更による影響は軽微であります。

3. 継続企業の前提に関する重要事象等

該当事項はありません。

4. 四半期連結財務諸表

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成28年2月29日)	当第2四半期連結会計期間 (平成28年8月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	6,320	5,228
受取手形及び売掛金	2,628	3,140
商品及び製品	268	294
仕掛品	164	431
原材料及び貯蔵品	158	175
繰延税金資産	187	192
その他	34	29
流動資産合計	9,763	9,492
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	3,231	3,282
土地	2,270	2,261
その他（純額）	730	793
有形固定資産合計	6,232	6,337
無形固定資産		
その他	149	176
無形固定資産合計	149	176
投資その他の資産		
投資有価証券	178	158
繰延税金資産	198	185
差入保証金	778	834
退職給付に係る資産	84	126
その他	304	236
投資その他の資産合計	1,544	1,541
固定資産合計	7,926	8,054
資産合計	17,689	17,546
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	1,215	1,576
未払金	552	478
未払法人税等	399	434
未払費用	926	1,002
賞与引当金	355	364
役員賞与引当金	42	19
その他	451	384
流動負債合計	3,944	4,259
固定負債		
長期借入金	212	137
資産除去債務	493	489
その他	94	89
固定負債合計	801	716
負債合計	4,745	4,975

(単位:百万円)

	前連結会計年度 (平成28年2月29日)	当第2四半期連結会計期間 (平成28年8月31日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,269	1,269
資本剰余金	1,074	1,074
利益剰余金	13,190	13,178
自己株式	△2,641	△3,014
株主資本合計	12,892	12,507
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	0	△13
退職給付に係る調整累計額	51	76
その他の包括利益累計額合計	52	62
純資産合計	12,944	12,570
負債純資産合計	17,689	17,546

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
 (四半期連結損益計算書)
 (第2四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成27年3月1日 至平成27年8月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成28年3月1日 至平成28年8月31日)
売上高	21,007	21,006
売上原価	10,931	10,931
売上総利益	10,075	10,075
販売費及び一般管理費	9,146	9,163
営業利益	929	912
営業外収益		
受取利息	1	0
受取配当金	1	1
工事負担金等受入額	10	5
その他	15	18
営業外収益合計	29	26
営業外費用		
支払利息	3	2
その他	8	3
営業外費用合計	12	6
経常利益	946	932
特別利益		
固定資産売却益	—	3
投資有価証券売却益	7	—
その他	—	0
特別利益合計	7	4
特別損失		
固定資産除売却損	9	7
減損損失	17	73
その他	8	6
特別損失合計	34	87
税金等調整前四半期純利益	918	849
法人税、住民税及び事業税	314	368
法人税等調整額	60	2
法人税等合計	374	370
四半期純利益	543	478
親会社株主に帰属する四半期純利益	543	478

(四半期連結包括利益計算書)
(第2四半期連結累計期間)

(単位:百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成27年3月1日 至平成27年8月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成28年3月1日 至平成28年8月31日)
四半期純利益	543	478
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△1	△14
退職給付に係る調整額	△6	25
その他の包括利益合計	△7	10
四半期包括利益	535	489
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	535	489

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成27年3月1日 至平成27年8月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成28年3月1日 至平成28年8月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	918	849
減価償却費	312	313
減損損失	17	73
賞与引当金の増減額(△は減少)	0	8
役員賞与引当金の増減額(△は減少)	△21	△22
退職給付に係る資産の増減額(△は増加)	7	△41
受取利息及び受取配当金	△3	△2
支払利息	3	2
有形固定資産除却損	9	7
有形固定資産売却損益(△は益)	—	△3
投資有価証券売却損益(△は益)	△7	—
売上債権の増減額(△は増加)	△144	△510
たな卸資産の増減額(△は増加)	△1	△308
仕入債務の増減額(△は減少)	206	360
未払金の増減額(△は減少)	25	△52
未払消費税等の増減額(△は減少)	△428	△88
その他	△14	123
小計	879	708
利息及び配当金の受取額	3	2
利息の支払額	△3	△2
法人税等の支払額	△516	△314
営業活動によるキャッシュ・フロー	363	394
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の預入による支出	△600	△600
定期預金の払戻による収入	600	600
有形固定資産の取得による支出	△363	△470
有形固定資産の売却による収入	—	15
投資有価証券の取得による支出	△1	△0
投資有価証券の売却による収入	17	—
差入保証金の差入による支出	△29	△5
差入保証金の回収による収入	11	2
その他	△56	△84
投資活動によるキャッシュ・フロー	△420	△542
財務活動によるキャッシュ・フロー		
長期借入金の返済による支出	△85	△75
自己株式の取得による支出	△1,648	△372
配当金の支払額	△497	△490
その他	△5	△5
財務活動によるキャッシュ・フロー	△2,235	△943
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△2,292	△1,092
現金及び現金同等物の期首残高	6,936	5,720
現金及び現金同等物の四半期末残高	4,644	4,628

（4）四半期連結財務諸表に関する注記事項

（継続企業の前提に関する注記）

該当事項はありません。

（株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記）

（自己株式の取得）

平成28年7月19日開催の取締役会において自己株式の取得を決議し、平成28年7月20日付で自己株式200,000株（取得価額372百万円）の取得を実施いたしました。これにより、当第2四半期連結会計期間末において自己株式が3,014百万円（1,740,627株）となりました。

（セグメント情報等）

【セグメント情報】

I 前第2四半期連結累計期間（自平成27年3月1日至平成27年8月31日）

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

（単位：百万円）

	報告セグメント						その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)3
	精肉事業	惣菜事業	和菓子 事業	レストラン 事業	食品事業	計				
売上高										
外部顧客への 売上高	7,121	6,056	3,528	2,676	1,623	21,007	—	21,007	—	21,007
セグメント間の 内部売上高又は 振替高	680	10	49	16	135	891	—	891	△891	—
計	7,802	6,066	3,577	2,693	1,758	21,898	—	21,898	△891	21,007
セグメント利益	497	579	276	156	163	1,672	—	1,672	△743	929

（注）1. 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、全社催事等であります。

2. セグメント利益の調整額△743百万円には、各報告セグメントに配分していない全社費用△763百万円及びその他調整額19百万円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

3. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

（固定資産に係る重要な減損損失）

「惣菜事業」及び「和菓子事業」において、店舗設備の減損損失をそれぞれ5百万円、11百万円計上しております。

なお、当該減損損失の計上額は、当第2四半期連結累計期間において、17百万円であります。

Ⅱ 当第2四半期連結累計期間(自平成28年3月1日至平成28年8月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント						その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)3
	精肉事業	惣菜事業	和菓子 事業	レストラン 事業	食品事業	計				
売上高										
外部顧客への 売上高	7,043	6,263	3,562	2,526	1,610	21,006	—	21,006	—	21,006
セグメント間の 内部売上高又は 振替高	612	12	37	27	138	828	—	828	△828	—
計	7,655	6,276	3,599	2,554	1,749	21,835	—	21,835	△828	21,006
セグメント利益	399	613	333	61	127	1,535	—	1,535	△623	912

(注) 1. 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、全社催事等であります。

2. セグメント利益の調整額△623百万円には、各報告セグメントに配分していない全社費用△641百万円及びその他調整額17百万円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

3. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

「レストラン事業」において、店舗設備の減損損失を73百万円計上しております。

なお、当該減損損失の計上額は、当第2四半期連結累計期間において、73百万円であります。